

# 「健康」テーマに、就業体験中の学生が企画 花マルシェにぎわう

殖生干拓地のシステム生産農場、花の海が毎月第3日曜日に続けている「花マルシェ」で15日、長期インターシップ中の学生が企画したイベントが行われた。「健康」をテーマに、レノ丸山口のマスコットキャラクター「レノ丸」とのPK対決、市食生活改善推進委員会による「元気のりのり汁」の接待などがあり、厳しい寒さの中、多くの市民が楽しんだ。



PK対決を楽しむ子どもたち（花の海で）

## 花の海

花マルシェは花の海に野菜や加工品、雑貨を出品している人が来店し、生産者と消費者が交流を図る場。同日は昨年9月からインターシップを続ける北九州市立天地域創生学群3年の前田将宏さんら学生3人が集大成として企画した。

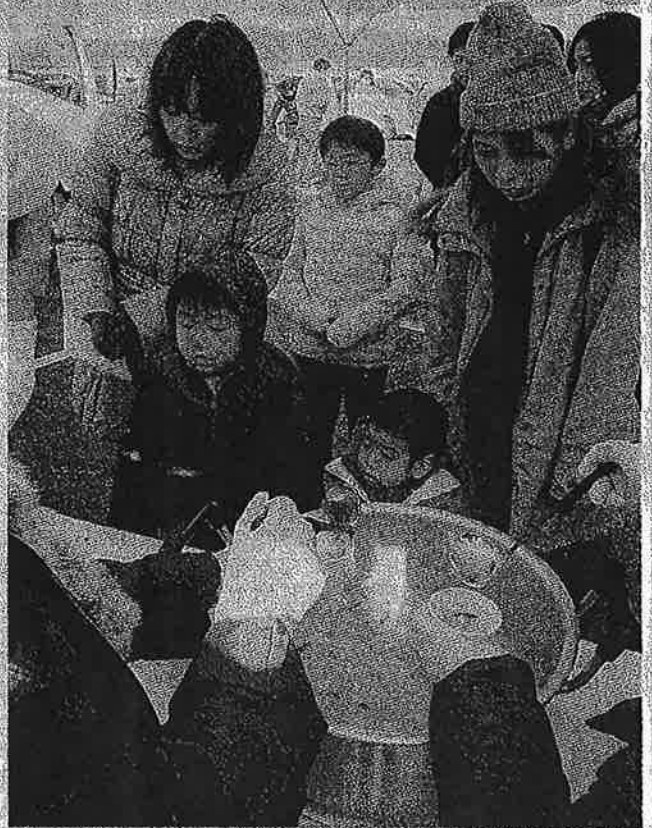
PK対決ではレノ丸が守るゴールに子どもたちがピンボールを蹴り込んだ。意外に早く駆け

るレノ丸に子どもたちもびっくり。サッカーよりも小さいフットサル用のゴールだけに、コースを狙ってシュートを放っていた。

郷の農家や加工業者が野菜などを販売。昨年5月から花の海で野菜の栽培を続けてきた山口市の児童養護施設・吉敷愛児園の子どもたちも野菜の販売体験を行った。

元気のりのり汁は同委員の3人が150食分を用意。時折、雪が舞う寒さとなっただけに、接待を始める前から親子連れらが長い列を作り、おいしく味わっていた。市食育推進室の職員による野菜クイズ、「おきょう体操」の実践もあった。店舗内外では市内や近

今月末で5カ月間のインターシップを終える前田さんは「農業や食について多くのことを学ぶことができた。来店者に地元の良さや隠れた魅力を知ってもらえるようにと企画し、多くの人の協力も得ることができた」と喜んでいった。（倉重）



元気のりのり汁を受け取る親子連れ（花の海で）



はさみでゴーヤの実を切り取る園児（花の海で）

## 園児らがゴーヤを収穫

埴生干拓地のシステム農場「花の海」で2日、地元の子園児と保護者54人が緑のカーテンとして育てたゴーヤの実を収穫した。ゴーヤを使った料理も試食し、省エネ効果だけでなく、暑い夏を乗り切る栄養についても学んだ。

### 「花の海」の緑のカーテン

市地球温暖化対策地域協議会（岡田昭会長）が環境について考えるきっかけに思ってもらおうと、花の海の協力を得て毎年実施。

岡田会長は「ゴーヤは緑のカーテンだけではなく料理しておいしく食べることができると、二匹二匹の野菜。収穫を通じて良さを知らせてもらえば」とあいさつした。

参加したのは埴生幼稚園、津布田保育園、あおい保育園の年長組園児たち。4月下旬に植えた後、2メートルの高さまで成長した緑のカーテンから実

を探し出し、大人の助けを借りながらはさみで切り取った。ゴーヤは園児が各自で持ち帰った。

あおい保育園の彌益武凌ちゃんは「手触りがごつごつしていておもしろい。食べるのが楽しみ。」

ほかの野菜もいっぱい食べる」と喜んでた。

昼食時には、埴生地食生活改善推進協議会や厚狭高総合家庭科が考案したドライカレーやケーキを試食。ナスとオクラの収穫も体験した。

（白男川）